

山根荘神楽公演プログラム批評

プログラムの書評を書いてください、とのご依頼がありました。何分初めてのことではあるし、そういった前例も今までにほとんどないような感じなので、以下、自分が思ったことを気のむくままに書かせていただく次第である。ご笑覧を賜りたい。

『山根荘神楽公演解説プログラム』を一読して、まず目に付くのが文字数の多さである。細かい文字がびっしりと書き込まれていて、読み易いか問われれば答えは否、中身についても総じてその道の専門家、あるいはこの分野に興味関心を有する者にとってのみ、その高価値の程が知られるといった内容であるので、偶々近くで催されたから会場に立ち寄ってみたという向きには、「伝統芸能を楽しく、わかりやすく、学ぶ事業」のプログラムにしては鬼面人を驚かすといった体裁だと思われるかもしれない。

一般にプログラムとは何ぞや、と聞かれて大方の脳裏に浮かぶのは、色とりどりの写真に満ち溢れた劇場や映画館で買うところの「それ」であろうと思われるが、「それ」に比べ

て本プログラムは、地味で薄くまた文字数の多さから読者にとって、確かにアンフレンドリーな外面を持っているといえよう。

だが、その読みづらき冊子を一度、苦勞して咀嚼してみたならば、汲めども尽きせぬ魅惑の神楽ワールドが広がっていることに我々は誰しも気付かされるであろう。

神楽ワールドといっても、見えてくるのは決して例えば演者の衣装、舞台装置、音楽云々などのことではない。もとよりそれらは来場者以外は鑑賞することができないからだ。

来場者以外にとってこのプログラムに価値があるのは、神楽の舞台の裏側、いわば舞台裏の暖簾の向こうにある楽屋の風景を垣間見せてくれるコンテンツが含まれているからなのである。

具体的にいえば、2ページからの「1 八股遠呂智退治の座の紹介」と「2 海辺産屋の紹介」で、それぞれの座（演目）の場面と、時間、演奏される曲名、演者と彼らの動きが詳述されている。これは来場者にとって鑑賞の助けとなると同時に、神楽師による新米演者への芸の継承にも役立つ内容

となっている（DVD等の映像資料を合わせれば更に効果が高まることは言うまでもない）。加えて同じ演目をレポーターとして持つ他の神楽団体や、神楽の保存活動に興味関心を持つ者にとっては、自分の演技を再確認するきっかけになったり、保存や継承についてのヒントや気づきを得る機会になったりと、それなりに活用が可能で、色々と重宝すると思われる。

つまり、一石二鳥的な使い方のできる巧みな構成になっているのだ。

更に進んで7ページの「コラム 大宮住吉神楽保存会と塚越囃子連」で「継承の具体的な様子」があからさまにされる。これはまさにプログラム制作担当者が言うとおりの、神楽団体の芸の継承についての「健康診断」結果とあってよいだろう。

一旦、紙面に掲載されてしまうと、今後継承の進捗度合いについて「あの演目についての後進への指導は上手くいきますか？」等と見も知らぬ第三者に聞かれたりする機会も出てくると思われるので、演者にとっては気を抜けたくても抜けない状況に追い込まれる事態と相成った。

継承の迅速かつ確実な達成を促進・助成する素晴らしい調査であり記録であると思う（これは、のんびり屋の私を基準に書いてますので、いつだって気を抜いたつもりはないと神楽師の方々から御叱りを受けるかもしれませんね。すみません。）。

付け加えて、神楽関係者のインタビューを複数載せている点も見逃せない特長である。

内部の人間の肉声が文字化され、それを見聞きする機会は、神楽に関心のある向きにとっても滅多にない機会であり、すなわち神楽の世界の今を知るにはまたとない貴重な資料となっている。

結論として、このプログラムの性格を一言で言い表すならば、公演演目を紹介する紙が挟まった雑誌「月間神楽」といったところだろうか。かなりマニアックな小雑誌である。

ついでに紙幅の都合等、承知の上で言うのだが、目次があってもいいと思うし、演目の流れや概略を漫画仕立てで説明してあれば来場したかを問わず誰にでも（特に若者には）もっとフレンドリーなプログラムになると思う。

蛇足ながら付け加えておきたい。

(小野寺正樹)